

呼吸器／消化器感染症で入院した小児患者への抗菌薬使用状況

【指標目的】

抗菌薬がその効果を最大限に保ち、耐性菌を増やさないようにする為に、抗菌薬の適正使用が重要である。小児科領域における感染症ではウイルス感染が多く、抗菌薬治療が必要ではない場合が多い。今回、当科における抗菌薬使用状況を明らかにすることで、抗菌薬適正使用の指標の一つとしたい。

【統計結果】

[分母] 集計期間内に退院して、DPC病名に呼吸器または消化器感染症の疾患名が登録されている患者

[分子] 入院中に抗菌薬注射（処方）を使用した患者

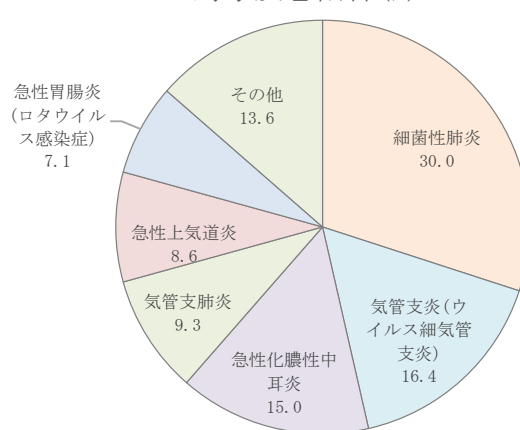
集計年月	対象疾患の退院患者数 (分母)	抗菌薬使用患者数 (分子)	抗菌薬実施率
2018年4月	35	13	37.1%
2018年5月	47	16	34.0%
2018年6月	58	24	41.4%
2018年7月	66	23	34.8%
2018年8月	46	13	28.3%
2018年9月	64	19	29.7%
2018年10月	43	12	27.9%
2018年11月	37	8	21.6%
2018年12月	43	12	27.9%
年度合計 (4月-12月)	439	140	31.9%

【抗菌薬使用患者情報：140名対象】

○対象疾患（患者数10名以上）

疾患名	患者数	割合(%)
細菌性肺炎	42	30.0
気管支炎(ウイルス細気管支炎)	23	16.4
急性化膿性中耳炎	21	15.0
気管支肺炎	13	9.3
急性上気道炎	12	8.6
急性胃腸炎(ロタウイルス感染症)	10	7.1
その他	19	13.6

対象疾患割合(%)



○対象抗菌薬注射使用（患者数2名以上）

抗菌薬注射名	患者数	割合(%)
ピクシリン注	93	66.4
セフトラキソン注	26	18.6
スルバシリン注	7	5.0
セファゾリンナトリウム注	5	3.6
ジスロマック注	2	1.4
その他	7	4.9

対象抗菌薬使用割合(%)

